

外来語の発音・表記について

～ [wi] [we] [wo] のつく外来語の発音・表記を中心に～

平成26（2014）年12月5日（金）、放送センターで第1386回放送用語委員会が開催された。第1381回および第1382回放送用語委員会に引き続き、外来語の発音・表記について、審議・検討が行われた。今回議題となった項目は以下のとおり。

●議題

1. 外国語・外来語のカナ表記・原則について
2. 原音に [wi] [we] [wo] の発音を含む外来語の発音・表記について

●報告

・『NHK 日本語発音アクセント辞典』の新しいアクセント記号について

今回の用語委員会では、「用語の決定」はしていない。用語委員からの意見を受け、再度事務局で検討のうえ、再提案することとする。

議題および報告にある調査・考察は山下が担当した。

議題 1

外国語・外来語のカナ表記・原則について

『NHK ことばのハンドブック第2版』（以下『ハンドブック』）の「外国語・外来語のカナ表記」の基本方針と原則では、「外国語」と「外来語」とを分けて使っており、また、「発音と表記の一致」については「発音は表記に一致させるもの」としている¹⁾。

この2つの点について、これまでの放送用語委員会で次のような問題が指摘されている²⁾。この問題に対して解決策を提案した。

○問題点 1

・原則にある「外国語・外来語」の「外国語」ということばは必要か？

（説明）

「外来語」は「外国語」そのものではなく、「外国

語」が、日本語化したもののことである。

一方、完全に日本語化していない語を「外国語」と呼ぶ場合がある³⁾。『ハンドブック』では、日本語化しているとは言えない語もともに説明しているため「外国語・外来語」と2つを並べる必要があったものと思われる⁴⁾。

しかし、こうした意味の区別はわかりにくく、「原則」には必要がないのではないか。また、アルファベットではなく、カタカナで表記されていれば、すでに日本語に取り入れられた「外来語」である、という考え方もできる。また、「外国語」とは英語やドイツ語などのある言語全体を指すことが多く、個々の単語を指して言うのはおかしいという考え方もある。

（提案）

こうしたことから、『ハンドブック』の原則では「外国語」を削除する。

なお、現在の『ハンドブック』には「外来語」を定義する説明がない。「外来語」とはどういう範囲の語なのかを説明する必要がある。

○問題点 2

・「発音は表記に一致させる」ではなく、「発音」を中心に考えるべきでは？

（説明）

『ハンドブック』は、外来語をどのように「表記」するのかを記している。そのため、「表記」を中心にした書き方をとっている。しかし、放送は、音声を中心にしたメディアである。まず「発音」について考えたほうがよい。そのほうが『NHK 日本語発音アクセント辞典』（以下『NHK アクセント辞典』）とも同一の考え方になる。

（提案）

「表記」と「発音」の関係を考え、「発音と表記は一致させるものとする」とする。

○用語委員意見

井上由美子委員：「外国語」ということばを削除するという提案に少し違和感がある。「外来語」というと「西洋」のことばをカナ書きするときに使う語というイメージがあると思う。また、現代中国語をどう考えるのかという問題があると思う。

青木奈緒委員：外国の地名・人名の扱いはどうなるのだろうか。

野村雅昭委員：どこか別のところで「外国語」と「外来語」をしっかりと区別しているのであれば、ここには「外国語」はなくていいと思う。今回は「原則」についての提案だが、「基本方針」にある「外国語・外来語や外国の地名・人名などの表記は～」という文言はどうなるのだろうか⁵⁾。そこは変えなくていいのか、それとも変えるのか。「基本方針」または「原則」で「外国の地名・人名」と「外来語」がそれぞれどういうものを指しているのかということの説明しておけばいいだろう。発音に関しては、「ヴァ行音の場合などは、表記と発音が一致しなくても差し支えない」という非常に強い表現が使われている。これは言い過ぎなのではないかという気がした。

井上史雄委員：放送用語委員会の議論としては「表記」をどうするか、ということであって、「発音」は優勢なものを採用し、それに「表記」を合わせるといことになるのではないかと。そうすると「表記と発音は一致させる」のほうがいい。表記と発音は一致させればいいのであって、実際には別の順番でもたいして違いはないと思う。『ハンドブック』には「別表」として「外国語・外来語をカナ書きするときに使うカナと符号」が示されているが、この名称はこのままにしておいていいのではないかと⁶⁾。例えば、まったく新しい固有名詞で、それを書き表すときに「別表」を使うことになる。新しい語をカナ表記するのに、「別表」にないカナが使われるのを防ぐためにも「別表」の名前には「外国語」が入っていていいだろう。

荻野綱男委員：変更に関しては全部賛成である。「外国語」については、なじみのない「語」（「単語」）のことを「外国語」と言うのは、ちょっと変だと思う。本来は「外国語」というのは言語体系のことを言うものだと思う。「外国語をカナ書きする」という言い方には違和感がある。日本語としてあまりなじみのないもの、例えば、外国で新しい発明品や製品名があり、それをカタカナで書かなければいけない

ということがあるかもしれない。そういうときはどうするのか、というのがここで「外国語」という語を入れたときの意識にあったのではないかと。外国でできた単語であってもそれをカナ書きして、日本語の文章の中に入れた場合、これは「外国語」ではなく、「外来語」扱いしているのではないかと。元の言語のアルファベットやハングル、中国の漢字で出てきたら、それはまだ「外国語」扱いしているように感じる。NHKが放送のことばとして使う場合には、基本的には「外国語」は使っていない。日本語だろう。「外国語」という部分を削っても問題にはならないと受け止めた。「表記は発音に」よりは「発音と表記は」のほうが望ましい。表記が先にあるのではなく、発音と表記は一体にあるものととらえるということで、両方とも提案どおりでいいのではないかと思う。

清水義範委員：「外国語」をカナ書きするわけがないと思う。カナ書きした段階で、それは「外来語」扱いになっている。「発音と表記」は、単なる表現方法の問題だが、「発音と表記は一致する」としたほうがすっきりすると思う。提案に賛成である。

町田健委員：外国語に由来する単語で古代中国から入ってきたものを「漢語」と言い、戦国時代以降にポルトガル語などから入ってきたものを「外来語」と言う。このようにふつうは「漢語」と「外来語」を区別する人が多いので、「外来語」だけにすると不安だという気持ちはよくわかる。しかし、和語以外の単語すべてを「外来語」と総称するのも悪くはないと思う。一方、近代中国から入ってきた「ギョーザ」や「シューマイ」などをどうするかという問題がある。「外来語」は「外国語に由来する単語」であり、どちらかに統一するというのであれば、「外国語」に統一してもいいのではないかとも思う。翻訳しにくい単語を、発音のとおりカタカナで書く場合がある。このような使い方もあるので、むしろ「外国語」のほうが、全体を包含するために適当な用語ではないかと思う。また「表記」が大事であるならば「表記と発音」にしてもいいのかもしれない。

議題 2

原音に [wi] [we] [wo] の発音を含む外来語の発音・表記について

[wi] [we] [wo] の発音を含む外来語の発音・表記について、細則を見直し、『NHKアクセント辞典』に掲載されている関連の語の発音・表記を提案する。

現在の『ハンドブック』では次のように決められている⁷⁾。

(ウィ・ウェ・ウォ) (ウイ・ウエ・ウオ) (イ・ー・ー)

原音 [wi] [we] [wo] は次のように扱う

(1) 原音に近く書き表す場合は「ウィ・ウェ・ウォ」と書く。

〈例〉スウェーデン Sweden (地)

ミルウォーキー Milwaukee (地)

(2) 一般的には「ウイ・ウエ・ウオ」と書く。

〈例〉ウイスキー whisky

ウエディング wedding

(3) 慣用により [wi] を「イ」と書くものがある。

〈例〉サンドイッチ sandwich

スイッチ switch

〈注〉地名・人名は「ウィ・ウエ・ウォ」と書く。

〈例〉ウィルソン Wilson (人)

ウェールズ Wales (地)

これを次のように変更することを提案する。

○提案

原音に [wi] [we] の発音を含む外来語は

① (推奨の発音・表記) ウイ, ウエ

② (許容の発音・表記) ウィ, ウェ⁸⁾
とする。

原音に [wo] の発音を含む外来語は「ウォ」と発音・表記する

注 「ウイスキー」など「ウイ」「ウエ」の発音・表記で定着している語や、「ハロウィーン」など「ウィ」「ウェ」の発音・表記で定着している語は、例外として、1つの発音・表記を示す。

注 外国の地名および人名はこれまでどおり「ウイ」「ウエ」「ウォ」で発音・表記する。

(提案についての説明)

調査の結果から、語によって傾向が異なることと、[ウイ][ウエ][ウォ]と[ウィ][ウェ][ウォ]でゆれがあることがわかる。いずれの場合も[ウイ][ウエ][ウォ]だけでなく[ウィ][ウェ][ウォ]の発音も意識されており、自分でもそう発音していると考える人

も多いようだ。

注意が必要なのは、[ウイ][ウエ][ウォ]と[ウィ][ウェ][ウォ]は、表記が違うだけでなく、発音も異なるという点である。前者は2拍であり、後者は1拍である⁹⁾。

国語辞典は、「ウイ」「ウエ」「ウォ」を主な表記として、「ウィ」「ウェ」「ウォ」も認めるものが多い。新しく使われるようになった語を中心に「ウイ」「ウエ」「ウォ」だけを認めるような立項も見られる。また、[wo] の発音を含む外来語は [wi] [we] と区別して、「ウォ」を主な表記としている辞典もある。

新聞社・通信社では、「ウイ」「ウエ」「ウォ」を原則にしているところが多いが、これも一部で「ウイ」「ウエ」「ウォ」を原則にしているところが出始めている。

放送でも、[ウイ][ウエ][ウォ]と発音されることがある。特に「ウォ」については、「ウォ」と発音されている場面を放送で見つけることが難しい¹⁰⁾。

放送用語小委員会では、「ウイ」「ウエ」「ウォ」の発音・表記を認めることについて、特に異論は聞かれなかったが、推奨の発音・表記は「ウイ」「ウエ」「ウォ」にすることを検討したほうがよいという意見があった¹¹⁾。

インターネットの検索結果では、「ウイ」「ウエ」「ウォ」の表記が多く使われている。ただし、原音 [wi] [we] [wo] の3つが同じようにゆれているわけではない。[wo] は「ウォ」とのゆれがあるというよりも、「ウォ」の表記で定着していると言えそうだ。

こうしたことから、発音に合わせて放送でも「ウイ」「ウエ」「ウォ」の表記も認めることを提案する。

ただし、[wi][we]と[wo]は扱いを変える。[wi][we]は「①ウイ, ウエ」「②ウイ, ウェ」とし、[wo]は「ウォ」はとらず、「ウォ」の発音・表記に統一する。

なお、発音および表記の慣用が「ウイ」「ウエ」「ウォ」の形で定着している語もある。こうした語は、これまでどおり、1つの発音・表記を示すことにする。[wei]については、[ウエー][ウェー][ウエイ][ウェイ]、4つの発音のパターンが考えられる。基本はほかの [wi] [we] と同様に「ウエー」と「ウェー」をとり、慣用が定着しており、発音にも無理がないと思われる語については「ウエイ」または「ウェイ」を認めることにしたい。

なお、地名・人名ではすでに「ウイ」「ウエ」「ウォ」を優先させており、今回の提案は、地名・人名以外のものに対して適用することにする。

○個別の語の提案

この細則をもとに、『NHK アクセント辞典』に掲載されている [wi] [we] [wo] 関連の語の発音・表記を次のように提案する。

◆ [wi] [we] 関連の語

- ①ウイーク ②ウィーク(これまで ウイーク)
- ①ウイークエンド ②ウィークエンド
(これまで ウイークエンド)
- ①ウイークデー ②ウィークデー
(これまで ウイークデー)
- ①ウイークポイント ②ウィークポイント
(これまで ウイークポイント)
- ①ウイークリー ②ウィークリー
(これまで ウイークリー)
- ①ウイット ②ウィット(これまで ウイット)
- ①ウインク ②ウィンク(これまで ウインク)
- ①ウイング ②ウイング
(これまで ウイング)¹²⁾
- ①ウインター ②ウィンター
(これまで ウインター)¹³⁾
- ①ウインタースポーツ ②ウィンタースポーツ
(これまで ウインタースポーツ)
- ①ウインドブレーカー ②ウインドブレーカー
(これまで ウインドブレーカー)
- ①ウインドー(窓) ②ウインドー
(これまで ウインド)
- ①ウインドーショッピング ②ウインドーショッピング
(これまで ウインドーショッピング)
- ①ゴールドデンウイーク ②ゴールドデンウィーク
(これまで ゴールドデンウイーク)
- ①ショーウインドー ②ショーウインドー
(これまで ショーウインドー)
- ①バードウイーク ②バードウィーク
(これまで バードウイーク)
- ①ウエット ②ウェット(これまで ウエット)
- ①ウエットスーツ ②ウェットスーツ
(これまで ウエットスーツ)
- ①ウエディング ②ウェディング
(これまで ウエディング)¹⁴⁾

◆ [ウエア] 関連の語¹⁵⁾

- ①アウトウエア ②アウトウェア
(これまで アウトウエア)
- ①アンダーウエア ②アンダーウェア
(これまで アンダーウエア)

- ①ウエア ②ウェア(これまで ウエア)
- ①ソフトウェア ②ソフトウェア
(これまで ソフトウェア)
- ①トレーニングウエア ②トレーニングウェア
(これまで トレーニングウエア)
- ①フォーマルウエア ②フォーマルウェア
(これまで フォーマルウエア)

◆ 「ウエー」関連の語¹⁶⁾

[wei] は、① [ウエー] ② [ウェー] を原則とする。慣用が定着していると考えられる語は、特例として① [ウエイ] ② [ウェイ] を認める。

- ①ウエイター ②ウェイター
(これまで ウエイター)
- ①ウエイトレス ②ウェイトレス
(これまで ウエイトレス)
- ①ウエーデルン ②ウェーデルン
(これまで ウエーデルン)
- ①ウエーブ ②ウェーブ(これまで ウエーブ)
- ①ドライブウエー ②ドライブウェー
(これまで ドライブウエー)
- ①ニューウエーブ ②ニューウェーブ
(これまで ニューウエーブ)
- ①ハイウエー ②ハイウェー
(これまで ハイウエー)
- ①ハーフウエー ②ハーフウェー
(これまで ハーフウエー)
- ①フェアウエー ②フェアウェー
(これまで フェアウエー)
- ①マイクロウエーブ ②マイクロウェーブ
(これまで マイクロウエーブ)
- ①ランプウエー ②ランプウェー
(これまで ランプウエー)
- ①ロープウエー ②ロープウェー
(これまで ロープウエー)

◆ [wo] 関連の語

発音および表記ともに [ウオ] で統一して無理がなく、[ウオ] よりも [ウォ] のほうが自然と判断し、すべて [ウォ] で統一する。

- ウォーキング (これまで ウォーキング)
- ウォーターシュート
(これまで ウォーターシュート)
- ウォーターポロ (これまで ウォーターポロ)
- ウォーミングアップ
(これまで ウォーミングアップ)

- ウォームアップ (これまで ウォームアップ)
- ウォッカ (これまで ウォッカ)
- ウォッチング (これまで ウォッチング)
- ストップウォッチ (これまで ストップウォッチ)
- ミネラルウォーター (これまで ミネラルウォーター)

◆ これまでどおりとする語¹⁷⁾

日本語に取り入れられた時期が古いものや和製英語、専門語として使われる表記がある語を中心に、これまでどおりとした。いずれも慣用が定着している語と考えられる。

ウイスキー、ウイニングショット、ウイニングボール、①ウイリス②ピールス、ウインカー、ウインチ、ウインナー、ウインナーコーヒー、キウイ(フルーツ、動物)、ウエスタン、ウエスト(waist, west)、ウエイト(weight)、ウエイトリフティング、ウエイトトレーニング、ウエハース、コールドウエーブ、マカロニウエスタン、スイートハート、スイートピー、スイートホーム、スイートポテト、スイートメロン、スーパード、スイッチ、スイッチバック、スイッチヒッター、スイング、スイングアウト、サンドイッチ、タイムスイッチ、ツイード、バックスイング、フルスイング、アウエー、ウエブ、ハロウィーン、レッグウォーマー

○原音 [wi] [we] [wo] の発音・表記の傾向

現代の日本語では、[ウイ][ウエ][ウオ]もしくは[オ]と発音されることが多い。例えば、助詞の「を」は[オ]と発音する。また、「ウイ」「ウエ」「ウオ」と書かれていても、実際の発音では[ウイ][ウエ][ウオ]となることが多い¹⁸⁾。

もともと日本語には[ウイ][ウエ][ウオ]という発音が存在し、[ウイ][ウエ][ウオ]との区別ができていた。しかし、9世紀以降、[o]と[wo]が混同される例が見え始め、11世紀初めにそれが一般化した。その後[wo]という発音になった。また、[i]と[wi]、[e]と[we]は、10世紀前半から混同され始め、13世紀には、[i][je]という発音になった¹⁹⁾。その後、江戸時代になって、[je]も[e]に変化し、[wo]も[o]に変化した²⁰⁾。

現代では[ウイ][ウエ]は外来語に使われる。また[ウオ]も外来語で使われるのは同様だが、外来語以外にも共通語で「剛うございます」「加うるに」を発音した場合に[コウォーゴザイマス][クウォウ

ルニ]などの形で現れることがある²¹⁾。そのほか、方言の一部では[wi][we][wo]が使われている地域もある。

NHKのニュースおよび料理番組(『きょうの料理』)で出てくる原音に[wi][we][wo]を含む外来語の発音をいくつか聞いたところ、以下のような傾向が見られた。

- ・[wo]は[ウオ]の発音しか出てこない。一方、[wi][we]は[ウイ][ウエ]と[ウイ][ウエ]両方の発音が聞かれる。
- ・[ウオ]の発音がないわけではないが、外来語ではなく、いずれも、和語(「魚」)や漢語などでの使用。
- ・外国の地名・人名は「ウイ」「ウエ」「ウオ」で発音・表記することになっているが、実際の音声では、地名や人名と一般名詞とを区別して発音はしていないようだ。
- ・[ウイ][ウエ][ウオ]に聞こえる場面でも、[ウウイスキー][ウウエディング°][ウウオーキング°]というように聞こえる場合も多い。

○アクセントの問題

1拍の[ウイ][ウエ][ウオ]の発音を加えた場合、2拍の場合とアクセントが異なることも考慮に入れる必要がある。

例：4拍平板の語が、3拍になった場合、

- 4拍であれば[ウエイト^ー]だが、3拍の場合には、[ウエ\イト]か?
- 4拍であれば[ウイ\ンク°][ウインク°^ー]だが、3拍の場合は[ウイ\ンク°]のみ?

○小委員会意見

◇2とおりの発音・表記を認めることについては、賛成意見と反対意見とがあった。

(具体的な意見)

- ・発音と表記の一致ということもあるが、放送の場合はテロップだけで情報を出すこともある。その場合には、見た目のかっこよさを考えることもあり、どちらも選べるように2とおりの表記を認めておいたほうがよい。
- ・発音に合わせるというが、記者が原稿を書く場合には、その人の感覚になってしまい、不統一になってしまう。原則は決めておく必要がある。

(事務局)

用語班に寄せられる番組からの問い合わせでは、「放送で使う場合の正解を教えてください」という声も多い。一方で、「ウィ」「ウェ」「ウォ」の表記を使ってしまったのだが、この表記は「間違い」になるのだろうか、という問い合わせも多い。番組の内容や性質によって(例えば、ニュースなどの報道とエンターテインメント系の番組)、考え方が異なる。

◇[wi] [we] [wo]の発音・表記については、「推奨」「許容」を認めるのであれば、「ウィ」「ウェ」「ウォ」を推奨としたほうが使いやすいのではないかと、という意見があった。

(具体的な意見)

- ・「推奨」と「許容」とがあった場合、ニュースでは、「許容」を使うことはほとんどない。結果的には「推奨」だけを使うことになってしまう。音声がなく、インターネットなど表記だけで示すような場合は、「ウィ」「ウェ」「ウォ」の表記のほうが違和感がない場合が多い。「ウィ」「ウェ」「ウォ」を「推奨」としてもいいのではないかと。
- ・現代では[wi] [we] [wo]が自然な発音であると考えれば、2つの発音・表記を認めても、結局は「ウィ」「ウェ」「ウォ」ばかりになってしまうように思う。
- ・ラジオでは、すんなりと聞くことができ、すんなりと言うことができる発音が良い。「ウィ」「ウェ」「ウォ」はやや古い発音・表記なのではないか。そうだとすれば、現代的な「ウィ」「ウェ」「ウォ」を優先させたほうがいい。

(事務局)

放送現場の感覚としては、現代的な「表記」として「ウィ」「ウェ」「ウォ」が認識されている。

また、「発音」も自然に発音すれば「ウィ」「ウェ」「ウォ」になると認識されている²²⁾。

○資料A. 発音に関連した資料

◆調査

・日本語の発音に関する調査(音声認識調査)
(調査期間:平成18年4月7日~16日, 調査方法:2とおりの読みを録音したCDを調査対象者に実際に聞かせて調査した。調査・対象:全国満20歳以上の男女282人)

・ウィ・ウェ・ウォか? ウィ・ウェ・ウォか?

「ストップウォッチ/ストップウォッチ」

「ウイスキー/ウイスキー」

「ウェブサイト/ウェブサイト」

「ウエルダン/ウエルダン」

図1 発音は同じに聞こえるか、違って聞こえるか

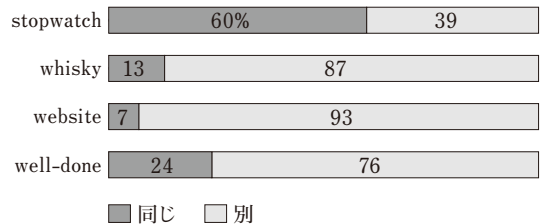


図2 どの発音を聞いたことがあるか

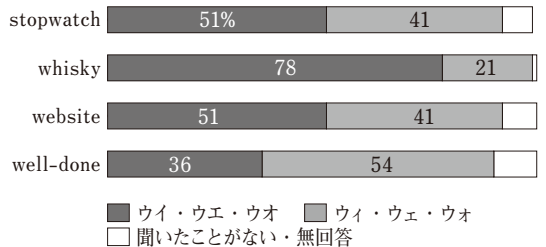


図3 自分はどの発音をするか

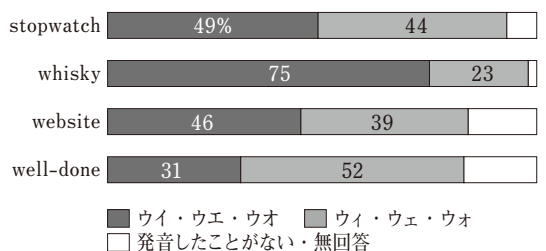
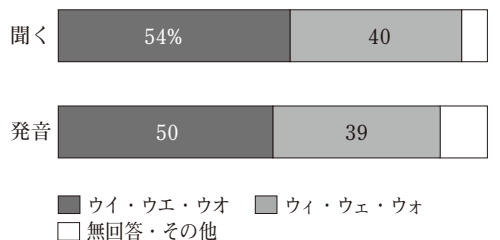


図4 4語の平均



・長音か？ 連母音か？

「ハイウエー／～ウエー／～ウエイ／～ウエイ」
 「ウエートレス／ウエー～／ウエイ～／ウエイ～」
 「ウエーブ／ウエーブ／ウエイブ／ウエイブ」
 「ウエート／ウエート／ウエイト／ウエイト」

図5 どの発音を聞いたことがあるか

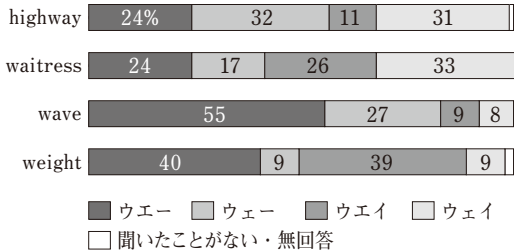


図6 自分はどの発音をするか

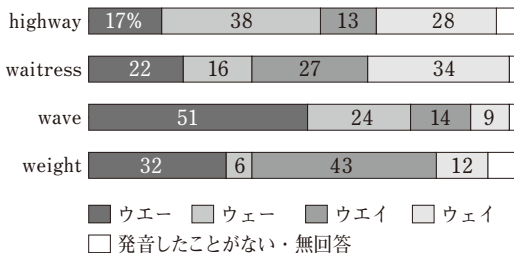


図7, 8, 9は…

長音：「ウエー」+「ウェー」と

連母音：「ウエイ」+「ウエイ」でまとめた結果

図7 どの発音を聞いたことがあるか

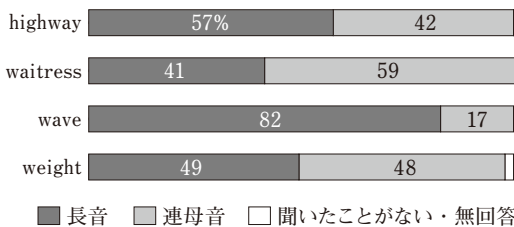


図8 自分はどの発音をするか

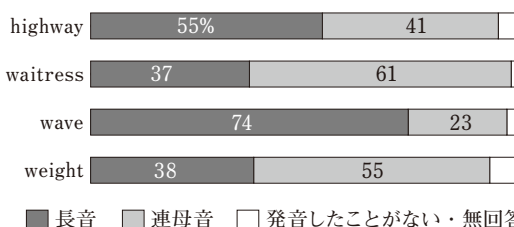
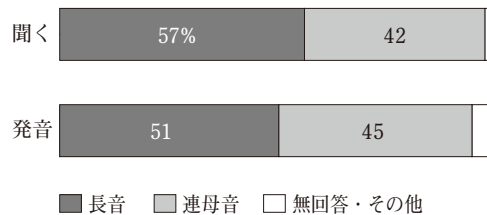


図9 4語の平均



○資料B. 表記に関連した資料

◆新聞社・通信社の扱い

現在、「新聞協会」で外来語の表記の変更を検討中。これまで、[wi] [we] [wo]については、各社同じ表記をしてきたが、朝日新聞と読売新聞だけが「ウィ」「ウェ」「ウォ」の表記を認めて、使うようになった²³⁾。

朝日、読売：ウィ、ウェ、ウォを使用（平26～）
 毎日、日経、産経、共同、時事：ウィ、ウエ、ウォを中心に例外の語を設ける

例外の語

毎日：サンドイッチ、スイッチ、ハロウィーン、ウェブсайт

日経、産経、共同、時事：アウエー、ウェブ、サンドイッチ、スイッチ、スイング、ハロウィーン

◆辞書の掲載

一般名詞は「ウィ」「ウェ」「ウォ」を主な表記とし、人名・地名は「ウィ」「ウェ」「ウォ」を使っている辞書が多い。

一般名詞でも語によっては「ウィ」「ウェ」「ウォ」の表記を補助として示したり、主な表記として示したりしている場合もある。[wo]だけは特に「ウォ」を中心とする辞書も出始めている。

大辞林（第3版）（平18）

「ウィ」「ウェ」「ウォ」を使用。「ウィ」「ウェ」「ウォ」は地名と人名を中心に使用。

ただし、新しい語（コンピューター用語中心）は一部「ウィ」「ウェ」「ウォ」だけを示している。

「ウィ」「ウェ」「ウォ」で示したものは「ウィ」「ウェ」「ウォ」の形を示していない。

明鏡国語辞典（第2版）（平22）

「ウィ」「ウェ」「ウォ」を使用。語釈の中に「ウィ」「ウェ」「ウォ」を示す語もある。

「ウィ」を見出しに立てる語は地名「ウィンブルド

ン」のみ。「ウエ」と「ウォ」を見出しとするのは、「ウェブ」「ウェブサイト」「ウェブページ」と「ウォルナット」のみ。

新選国語辞典（第9版）（平23）

標準の形としては「ウイ」「ウエ」「ウォ」をとっている。「wi」「we」は、「ウイ」「ウエ」だけを示している語と、「ウイ」「ウエ」を標準にして、「ウイ」「ウエ」を慣用として見出しに入れている語がある。

「wo」は、「ウォ」だけを示す語はなく、「ウォ」を標準に、「ウォ」を慣用として示している。

新明解国語辞典（第7版）（平24）

「ウイ」「ウエ」「ウォ」を使用し、対になる形（「ウイ」「ウエ」「ウォ」）を示さない語が多い。

語によっては「ウイ」「ウエ」「ウォ」を見出しにしている。

「ウイ」「ウエ」「ウォ」を見出しにしている語の中には、「ウイ」「ウエ」「ウォ」の表記を示すものもある。

三省堂国語辞典（第7版）（平26）

「wi」「we」「wo」、それぞれで扱いが異なる。

「wi」は「ウイ」だけをとる語が多く、語によっては「ウイ」を主な表記として「ウイ」の表記も示している。また、少ないが「ウイ」を主な表記として「ウイ」の表記も示している語もある。「ウイ」だけを示す語はない。

「we」は「ウエ」だけを見出しにする語と、コンピューター用語を中心に「ウエ」だけを見出しにする語もある。

「wo」は「ウォ」を主な見出しとして示す語がない。「ウォ」を主な見出しとして、説明に「ウォ」の表記も示す語と、「ウォ」の表記だけを示す語とがある。

コンサイスカタカナ語辞典（第4版）（平22）

「wi」「we」は原則的に「ウイ」「ウエ」を使用。日本に入ってきた時期が「現代」のものや、古くから使われる外来語だが、現代になって新しい意味が加わって使われるようになった外来語は、ほとんど「ウイ」「ウエ」。両方の形をのせている語は少ない。人名は「ウイ」「ウエ」「ウォ」だが、地名は、一部「ウエスト」関連の語で「ウエ」をとるものがある。

「wo」は、2語を除いて「ウォ」のみ（「ウォブル（ボクシング用語）」のみ「ウォ」,「ウォツカ」は「ウォツカ」の形も示している）。

「wei」は借入時期によって表記を分けている。現代のものは「ウェー」または「ウエイ」。現代ではないものは「ウエー」。

◆一般での使用実態

▽「ウエディング」について

○古い用例（近代デジタルライブラリー）

『お菓子の作り方百卅種』（主婦の友社）（昭3）
ウエディング・ゼリー

○新しい用例

・リクルート『ゼクシィ』『ウエディング』
・会社名「みんなのウエディング」
→「ウエディング」「ウエディング」2とおりの表記があるものの、相談所の名称など「ウエディング」が一般的。

▽「ウエットティッシュ」について

・ユニチャーム「ウエットティッシュ」

▽「ウエー」について

▼「〇〇ウエー」

フランク・シナトラ「マイウエイ」

▼「ハイウエー」

サービスエリアの名称（固有名称）：

ハイウェイオアシス

▼「ドライブウエー」

固有名称：奥比叡ドライブウェイなど「ドライブウェイ」が多い

▼「ロープウエー」

固有名称：ロープウエー、ロープウエー、ロープウェイの3パターン。

（「ロープウエー」はほとんど見られない）

（Google 検索で20件の表記をチェック・固有名称のみ）

ロープウエー （20件中1件）	ロープウエー （20件中7件）	ロープウェイ （20件中9件）
宮島ロープウエー	八海山 ロープウエー	箱根ロープウェイ
	八甲田 ロープウエー	新穂高 ロープウェイ
	箱根駒ヶ岳 ロープウエー	那須 ロープウェイ
	六甲有馬 ロープウエー	谷川岳 ロープウェイ
	鋸山ロープウエー	御岳ロープウェイ
	八幡山 ロープウエー	鬼怒川温泉 ロープウェイ
	金華山 ロープウエー	有珠山 ロープウェイ
		別府ロープウェイ
		御在所 ロープウェイ

◆専門語の扱い

▽「ウエア」について

- ・水球競技ハンドブック (2014)
水着及びウエアー・持ち物には、それぞれ利用の異なる毎に～。
- ・ハンドボール競技規則 (2014)
交代地域にいるチーム役員は、スポーツウエアか平服をきちんと着用していなければならない。
- ・日本自転車競技・競技規則集 (2014)
アイウェアを交換することができるエリアは～

▽「ウエー」について

▼「ハーフウエー」

- ・ラグビー競技規則 (2014)
ハーフウェイラインの両側 10 メートルの地点に水平な線分をそれぞれ引く。
- ・サッカー競技規則 (2013 / 2014)
2本のタッチラインの中点を結ぶハーフウェイラインでフィールドを半分に分ける。

▼「フェアウエー」

- ・ゴルフ規則裁定集
フェアウェイの修理地内で、球が地面にくい込んでいる場合

▽「ウエディング」について

- ・「NHK 音楽定訳データベース」(音楽用語・部内資料)
ウェディング・ケーキ
(サン・サーンス作曲)

▽「ウオーキング」について

- ・一般社団法人日本ウオーキング協会

▽「ウオッチング」について

- ・日本野鳥の会「バードウオッチング検定」

▽「ウオッカ」について

- ・『日本食品標準成分表 2010』 ウオッカ

▽「ストップウオッチ」について

- ・競泳競技規則 (2014)
(略)1レーン3台のデジタルストップウオッチ(以下「ストップウオッチ」という)を使用できない競技会においては～
- ・アメリカンフットボール公式規則 (2013～2014)
(略)サイドジャッジが操作するストップ・ウオッチか、特定の審判員の指揮下にある助手が～

- ・ホッケー競技規則 (2013)

(略)音量が大きく明瞭な音色の笛, ストップウオッチ～

▽「ミネラルウォーター」について

- ・厚生労働省の清涼飲料水規格基準「ミネラルウォーター類」
- ・日本ミネラルウォーター協会

○用語委員意見

町田健委員:現代では「ウイ」「ウエ」、つまり[w]が半母音化している言い方のほうが多いと思う。推奨を「ウイ」「ウエ」にして、許容を「ウイ」「ウエ」にしたほうが実態に合っているのではないだろうか。原則にはずれる語は、そのままにするということも、資料をもとにした提案なので異論はない。「ウオッカ」については、原音とは異なった形で日本語化したものであり、原音は「ヴォトカ」に近いことを説明に入れておくと親切なのかなと思った。

清水義範委員:推奨が「ウイ」「ウエ」で、許容が「ウイ」「ウエ」という点に少し疑問がある。「ウイ」「ウエ」のほうが古くから入ってきていてなじんでいるもので、新しく入ってきたものは「ウイ」「ウエ」だと思う。今後は「ウイ」「ウエ」のほうが多くなると思う。推奨と許容が[wɪ]と[we]にはあつて、[wo]にはないというのは、どういう根拠でそうなるのか。「ウオ」が許容に入ってもいいのではないか。

荻野綱男委員:推奨と許容ということだが、「ウイ」と「ウイ」はとても微妙な問題だと思う。発音も微妙だが、目で見たときにも、大きい文字なのか小さい文字なのかという違いはさほどないと受け止められる。非常に近い2つに対して、推奨、許容を示し、覚えて使い分けるようにするのは、決めすぎという感想を持った。では、どうすればいいか。単語ごとに傾向が違うのは確かである。そうである以上、なんとか1つに決めて、こちらにしたいとしたほうがいいと思う。視聴者から見ても、どっちがどっちと気になるようなものでもない。今後、電子的に記録されていくと、2つ以上の表記があるものは、文字コードが違うので検索もしにくい。

井上史雄委員:どの発音が一般的かを見て、その発音に合わせて表記を定めるというのが「細則」の根本的な態度である。しかし、調査や資料から見て今回の提案になったということだろう。「ウイ」「ウエ」と「ウオ」の扱いを変える提案になっている。

このほうが単純で覚えやすいと思う。推奨、許容を認めた場合、すべての「ウイ」「ウエ」で始まる単語に対して、同じ順番で推奨・許容を辞書に示すのだろうか。本来の「細則」に戻って、[ウイ]と発音される語は「ウイ」と書き、反対に、[ウエ]と発音される語は「ウエ」を優先させる、といった、語ごとの判断が必要だろう。「原則」として今回の提案を提示するのはいいと思う。外来語は個々の定着度が違うので、辞書に示すときには例外を認める必要がある。「ウォ」についても、確かに[ウォ]の発音は多くなっているが、まだ[ウオ]と発音されることが多いのではないか。言語学の理論で「語彙的伝播」という考え方があり、これを外来語についても適用できると思う。ある発音が広がるときに個々の単語ごとに広がる。一斉に[ウエ]が[ウエ]に変わるというのではなく、この単語はある人、あるグループが「ウエ」から「ウエ」に変える。その影響が別の単語に及ぶということで、少しずつ変わる。それが当てはまる。

「ウォ」だけを特別扱いしているが、国語史から言っても、「ウォ」の発音はかなりのちまで残った。また、方言分布でも「ウォ」は広いが、「ウイ」「ウエ」は狭い。それが、現代の外来語にも反映されていると言っている。その意味で、今回の提案は一応裏付けができる。母音三角形で、前寄りの母音(イ、エ)、後ろ寄りの母音(ウ、オ)との相互関係を示すと、説明できる。現代の外来語の発音のいくつかは古代の日本語にすでにあったもの、また方言にあるものである。まったく新しく外来音として採用されるものはほぼないと言っている。「復活する」と言っているが、その「復活」が、方言の発音が残っているときに、その発音を使っていた人たちによって使われるのではなく、「ウォ」を完全に失った知識人が原音に近く発音するために「ウォ」を使っているようだ。使用者層も違うし、文体も違うのではないかと考える。

野村雅昭委員: 「ウイ」「ウエ」と「ウォ」を分けるということは、賛成である。この2つを分けることの意味を確認する必要がある。この3つの中で「ウォ」は例外的である。ほかの「ウイ」や「ウエ」は鎌倉時代になる前にほぼ消えていたと言っている。しかし、「ウォ」に関してだけは、「オ」よりも「ウォ」のほうが優勢になった時代がある。助詞で「を」をひらがなで書くが、あれはまさしく[ウォ]で発音されていた。

それが現在のように[オ]に逆転するのは、江戸時代になってからであって、その点ではほかの2つとは違うという感じを持つ。われわれ日本人には「ウォ」は比較的なじみやすいということが歴史的にもあるような気がする。そこで今回の提案だが、「ウォ」については例外をつけなくていいのか、という心配はある。また、「推奨」「許容」で示される[wi][we]関連の語は、実際にどのように辞典に見出しとして掲げられるのだろうか²⁴⁾。小委員会の意見に、ニュースでは「推奨」しか使えないのではないかと、いうものがある。「推奨」と「許容」というのは何が違うのか。2つの基準があるということが、将来、混乱のもとにならないかということ懸念する。しかし、その懸念に対応するような提案も難しいと思う。特に「ウイ」「ウエ」に関しては、非常に難しいことがある。例えば、「ウェー」「ドライブウェー」「ロープウェー」は、どう扱うのだろうか。

書かれていることと、発音が違うことも多いが、そう言ってしまうといいのだろうか。この問題が、「許容」と「推奨」との間でどういうふうにかかわるのか、もう少し議論したほうがいいのではないかと懸念する。

青木奈緒委員: 仮に一般の視聴者からNHKでは[wi][we][wo]をどうしているのか、と質問がきて答えなければいけない場合に、「推奨」「許容」がこうなっていると言われても、どっちもいいのかと思ってしまうように思う。「推奨」と「許容」の順番がこうなっている理由は何なのか。逆にしたらどうということになるのか、という根拠がいまひとつわからない。おそらく全体の流れとしては、歴史が古いものは「ウイ」「ウエ」「ウォ」になって、今に近いものになればなるほど「ウイ」「ウエ」「ウォ」という流れがあるのではないかとこのように思う。そうだとすると、いずれ「推奨」と「許容」は逆にしなければいけないときもくるのかもしれない。そうであれば、古くから日本に入ってきたもの、母音を大きく書いて、それ以外は小さくするというふうにしてしまっただろうか。問題はあつたのだろうか。外来語、特に「ウイ」「ウエ」「ウォ」に関しては、規則からはずれてしまうものがあまりにも多い。これで全部網羅できているのかということ、判断がつかないほど多いと思う。これからどんどん増えるだろう。それであれば、視聴者から質問がきたときなるべく簡単に答えられる形にしたほうがいいのではないかと懸念する。

井上由美子委員: これまで2拍しかなかったものに

1拍を認めるようになった部分に関してはとてもわかりやすくなったと思うし、使いやすくなるのではないかと思う。特に「ウォ」と「ウィ」「ウエ」を分けた部分などはわかりやすくなったと思う。しかし、小委員の意見にあるように「ウィ」「ウエ」「ウォ」を優先させたほうが現実的なのではないかと感じた。日本人がことばを使うときに、発音する、実際に文字を書く、パソコンのキーボードで打つ、という3つの方法がある。1拍の「ウィ」はキーボードで打つのが難しい。「uxi」と打つのを知らない方は「ui」で打つことが多いのではないかと思う。そういうことを考えると、インターネットの検索結果では「ウィ」「ウエ」「ウォ」が少なめに出ていることも考えられる。また、話すときには「ウエア」と言っても、書くときは「ウェア」と書くことが多い。もう少し慎重に議論していただいてもいいように思う。

報告

『アクセント辞典』の新しいアクセント記号について

第6回および第7回『NHK日本語発音アクセント辞典』改訂専門委員会(平成24年5月25日、平成26年5月26日)で、新しいアクセント記号と辞典の立項方法が決まった。その内容について、用語委員に報告をした。

「アクセント記号の変更」について、電子データのやりとり際に際して文字化けのない記号を新たに選んだ。また、「上がり目」は示さず、「下がり目」だけを示すことにする、などの説明があった。そのほか、「見出しの立て方の変更」「ゆれのある語の示し方」「エ段に続くイの示し方」などを説明した²⁵⁾。

○用語委員意見

野村雅昭委員:記号を変更する理由として、1拍と2拍の間に従来のような示し方をすると高さの差があることが強調されすぎてしまうという説明があった。それは確かにそのとおりで、従来の示し方ではちょっと問題があったと思う。では、この新しい方式がこれから広く行われていくのかどうか。この表示方法について、これからどういう方向がとられるのか。NHKがこの方法をとるとなると、その影響力は非常に大きい。そういう点において、ちょっと心配がある。

荻野綱男委員:エ段に続く長母音は長音符号を使うということだが、そうでない例外的な語もある。「エ

イ」(魚)や「毛糸」のような例外の語をリストアップしなければいけない。また、「背」は[セイ]なのか[セー]なのか²⁶⁾。今までは、実際に[セイ]と言っているのか[セー]と言っているのかは問われなかった。もし、書き分けるということであれば、発音の実態を調べる調査が必要になりそうだ。

事務局からは、現在の専門家の考え方についても説明をした。また、「エ段に続くイ」については、和語の場合は語ごとの検討が必要であり、現在、検討・整理を進めているという説明をした。

山下洋子(やました ようこ)

注:

1) 『NHKことばのハンドブック第2版』(NHK出版・2005(現在、2014年発行の12刷が最新))のp.221には「外国語・外来語のカナ表記」の原則が次のように記されている(下線は、筆者補足)。

1. 用字

文字は、原則としてカタカナを使う。

使用するカタカナは、別表「外国語・外来語をカナ書きするときを使うカナと符号」に記載のものに限る。

2. 一般向け表記と専門表記

ニュース・番組では、視聴者にわかりやすく親しみやすいことを旨とし、なるべく一般に広く通用している表記を使う。

ただし、必要がある場合には、原則1の用字の範囲内で、専門分野などで使われている表記を使ってもよい。

3. 発音

原則として発音は表記に一致させるものとする。ただし、ヴァ行音の場合などは、表記と発音が一致しなくても差し支えない。

4. 表記の統一

個々の外国語・外来語や外国の地名・人名の表記については、できる範囲で、新聞など他のマスメディアで使用されている表記との統一をはかる。

- 2) 山下洋子(2013.5)「第1368回放送用語委員会報告」、山下洋子(2014.12)「第1382回放送用語委員会報告」、いずれも『放送研究と調査』掲載。
- 3) 石野博史(1983)『現代外来語考』p.7、および石綿敏雄(2001)『外来語の総合的研究』p.10 参照。
- 4) 『NHKことばのハンドブック第2版』(NHK出版・2005(現在、2014年発行の12刷が最新))のp.221には「外国語・外来語のカナ表記」の基本方針が次の枠内のように記されている(下線は、筆者補足)。

外国語・外来語や外国の地名・人名などの表記は、それぞれのことばの日本語化の程度を考慮し、次のように扱う。

1. 原音とは異なる慣用が熟しているものは、慣用の形を尊重する。
2. 慣用が熟していないものは、なるべく原音に近く書き表す。

ここで示している「外国語」とは、「外来語」ほど日本語化していない「外国の地名・人名」以外の語を指していると思われる。

- 5) 注4に示した『NHKことばのハンドブック第2版』（NHK出版・2005（現在、2014年発行の12刷が最新））の「外国語・外来語のカナ表記」の基本方針のこと。
- 6) 『NHKことばのハンドブック第2版』（NHK出版・2005（現在、2014年発行の12刷が最新））p.231「別表 外国語・外来語をカナ書きするときに使うカナと符号」。外国の地名や人名、外来語をカタカナ表記する場合には、この表に示されているカナおよび符号の範囲内で書き表す。内閣告示・訓令の「外来語の表記」（平成3年6月28日）に示された「『外来語の表記』に用いる仮名と符号の表」の内容とほぼ同様だが、NHKの別表に示されている「ヒェ」「ニェ」「ファ」「フォ」「ヴァ」「ヴォ」「グィ」「グェ」「グォ」は、内閣告示・訓令の表には含まれていない。
- 7) 『NHKことばのハンドブック第2版』（NHK出版・2005（現在、2014年発行の12刷が最新））p.226参照。「第1358回放送用語委員会」（山下洋子2012.9）で、[wi] [we] [wo]の発音・表記の細則変更が議論された。次のように提案した。

[wi] [we] [wo]の語は次のように扱う

(1) [ウィ・ウエ・ウオ]と発音することが一般的である語は、「ウィ・ウエ・ウオ」と書く。

例 ウィスキー whisky
ウエディング wedding
ウオッカ vodka

(2) [ウィ] [ウェ] [ウォ]と発音することが一般的である語は「ウィ・ウエ・ウオ」と書く。

例 ハロウィーン Halloween
ロープウェー rope way
ニューウェーブ new wave
ミネラルウォーター mineral water

注 新しく入ってきた外来語は、現代では[ウィ] [ウェ] [ウォ]と発音される傾向がある。これは当面「ウィ・ウエ・ウオ」で表記することとし、変化してきた場合には別途検討する。

例 アウェー away

～ウォーズ wars（造語）

注 地名・人名は「ウィ・ウエ・ウオ」と書く。

例 スウェーデン Sweden（地）

ミルウォーキー Milwaukee（地）

(3) 慣用により [wi] を [イ] と発音する語がある。こうしたものは、「イ」と書く。

例 サンドイッチ sandwich

スイッチ switch

スイーツ sweets（× スイーツ）

ツイッター Twitter（× ツイッター）

ツイート tweet（× ツイート）

[wi] [we] [wo]の発音・表記は、語によって異なるため、語ごとに検討するしかない。また、最近の傾向として「ウィ」「ウェ」「ウォ」で表記されることが多く、また、発音も「ウィ」「ウェ」「ウォ」で無理がないものが多いと考え、新しい外来語は「ウィ」「ウェ」「ウォ」で発音・表記することを提案した。この細則は「用語の決定」には至らなかったが、用語委員会の席上では特に異論はなかった。

なお、語の流入年代によって、「ウィ」「ウェ」「ウォ」にする語と「ウィ」[ウェ] [ウォ]にする語を分けることも検討した。つまり、古い時代に日本語に流入した語は「ウィ」[ウェ] [ウォ]、新しく流入した語は「ウィ」[ウェ] [ウォ]とするということである。しかし、いつを「古い」とするのか、いつを「新しい」とするのかといった問題があるため、事務局では、この考え方はとらなかった。

- 8) いくつかの形でゆれのある語で、どちらかに統一できない場合、『NHKアクセント辞典』では「①（推奨の発音・表記）」と「②（許容の発音・表記）」で読み順位をつけることがある。放送で、発音・表記に迷った場合、その語を発音する音声がない場合には、「①（推奨の発音・表記）」で発音・表記する。「①（推奨の発音・表記）」が、自然な発音に近い表記だと考えられる。一方、実際の発音がある場合や、現代的な発音・表記を選びたい場面では、「②（許容の発音・表記）」を使ってもかまわない。
- 9) NHK放送文化研究所ホームページ「放送現場の疑問・視聴者の疑問」2015年2月1日「『ウィスキー』か『ウイスキー』か」参照。
- 10) 部内資料で、過去のニュース音声や現在のニュース音声を筆者が確認した。
- 11) 第351回放送用語小委員会（平成26年11月18日開催）で出た意見。「放送用語小委員会」はNHKの放送現場（番組、報道）のチーフプロデューサーなどを中心に選任し、「放送用語委員会」（大委員会）で審議する内容について、意見を聞く。
- 12) 「ウイング」「ウインター」「ウエディング」は、現行版のままとも検討した。専門語として決まった使い方があられるわけではないことや、

インターネットの検索結果から、「ウイ」「ウエ」の表記も多い。例外とはせず2とおりの発音・表記を認める語に入れた。

- 13) 注12と同じ。
- 14) 注12と同じ。
- 15) 「エア (-)」「クリア (-)」「フェア (-)」「ヘア (-)」のように、最後がのびて発音されるように聞こえたり、長音をつけて表記したりする場合がある。しかし、「～ware」については、「ウェア」という語形があまり見られないことと、実際の発音でも「ウエア」または「ウエア」と発音できていると考えられることから、「①ウエア②ウェア」で提案した。
- 16) 「～way」は、語や使う場面によって、表記は「ウエー」「ウェー」「ウェイ」の3パターンが使われている。中でも「ウエー」と「ウェイ」で表記にゆれがあるのが実態であり、調査結果でもこうしたゆれが見られる。しかし、ニュースの実際の音声では、「ウェイ」という発音はあまり聞かれない。こうしたことから、①[ウエー]②[ウェー]とした。「ウエーター」「ウエイトレス」は、現行版のままとすることも検討したが、調査の結果、「ウェイ」の発音を意識している人も多かった。そのため、例外とはせず「①ウエイ②ウェイ」で提案した。
- 17) ここにあげた語は、すでに慣用が定着していると考え、これまでどおりとした。四角で囲んだ語は「ウイ」「ウエ」「ウオ」で定着した語。そのほかの語は、「ウイ」「ウエ」「ウオ」の表記で定着している語である。
1. 学術用語または専門語として使われており、慣用が固定している語
⇒ウイルス、ウインカー、ウインチ、キウイ(フルーツ、動物)
注:動物の「キウイ」は専門語として「キーウイ」とされる場合もあるが、一般的でわかりやすい発音・表記として、ここでは「キウイ」だけを示した。番組の内容によっては、専門的な「キーウイ」を使うことを否定するわけではない。
 2. スポーツ用語として使われる語で、スポーツの分野では慣用が固定している語
⇒ウイニングショット、ウイニングボール、**アウエー**、ウエイト(weightの場合)、ウエイトリフティング、ウエイトトレーニング
 3. 和製英語や古い時代に流入して使われている語で、慣用が固定している語
⇒ウイスキー、ウイナー、ウイナーコーヒー、ウエスタン、ウエスト(waist, west)、ウエハース、コールドウエーブ、マカロニウエスタン、スイッチ、スイート、スイーツ

注:『NHK アクセント辞典』に掲載はないが、『ハンドブック』に掲載の「スイーツ」についても「スイーツ」のままとする。

4. 新しく使われるようになった語

⇒**ハロウィーン**、**ウェブ**

これまでどおりとした理由となる資料

▽「ウイルス」について

『学術用語集』(医学)(歯学)(遺伝学)(動物学):ウイルス

学会名:日本ウイルス学会

▽「ウインチ」について

日本工業規格(JIS):電動ウインチ、船用カーゴウインチ、ムアリングウインチ

▽「キウイ」について

植物の場合→『日本食品標準成分表2010』:
キウイフルーツ

動物の場合→天王寺動物園

(日本で唯一「キウイ」を飼育):キーウイ
→植物の場合と、動物の場合とで専門語の扱いが異なる。動物の場合、専門語としては「キーウイ」の表記も出てきているが、「キウイ」が一般的と言えそう(後述のインターネットの検索結果参照)

▽「アウエー」について

サッカー競技規則:

第17条 試合またはホームアンドアウエー対戦の勝者を決定する方法

▽「ウエイトリフティング」について

協会・団体名:日本ウエイトリフティング協会
そのほか:日本オリンピック委員会

「ウエイトリフティング」

▽「ウイニング～」について

アイスホッケー公式国際競技規則(2010～2014年度)

延長またはゲーム・ウィニング・ショットの前に整水が行われない場合～

ゲーム名:「ウイニングイレブン」

「ウイニングラン」

競馬番組:ウイニング競馬

→一般的には、「ウイ」だが、専門語では「ウイ」の場合も

▽「ウイスキー」について

古い用例(近代デジタルライブラリー)

『合同組合論』(中島滋太郎 訳補)(明33)

ウキスキー

新しい用例

・酒税法:第3条 5. 蒸留酒類 次に掲げる種類(その他の発泡性酒類を除く。)をいう。

ハ ウイスキー

・『日本食品標準成分表2010』 ウイスキー

・ニッカウキスキー

- ▽ 「ウインナー」について
 - ・『日本食品標準成分表 2010』
ウインナーソーセージ
 - ・伊藤ハム「ポークウインナー」
 - ▽ 「ウエスタン」について
 - 古い用例（近代デジタルライブラリー）
『米国木材指針』（米国貿易会社木材部）（大11）
ウエスタン レッド シダー（亜米利加杉）
 - 新しい用例
使用例：ウエスタン・リーグ、カントリー&ウエスタン、マカロニウエスタン
 - ▽ 「ウエハース」について
 - ・『日本食品標準成分表 2010』 ウエハース
 - ▽ 「スイッチ」について
 - 古い用例（近代デジタルライブラリー）
『鉄道道路曲線測量表』（柴山武之助）（大4）
スリップスイッチ
 - 新しい用例
・日本工業規格（JIS）：油圧スイッチ、機器用スイッチ、光スイッチ、リモコンスイッチ など、40件登録（「ススイッチ」などなし）
 - ▽ 「スイーツ」について
 - ・店名「スイーツパラダイス」（実際の店の看板では「スイ」とイが小さくデザインされているようにも見える）
 - ・店名「堂島スウィーツ」
 - ・会社名「ヒルズスイーツ宇都宮ブリーズテラス」
 - ・新語「フェイクスイーツ」「スイーツデコ」
→「スイーツ」「スウィーツ」「スイーツ」などの表記が見られるが、「スイーツ」が多い。「スイーツ」は「菓子」としてよりも、「歓喜」という意味として結婚関連情報で使われる用例が見られる。上記の「ヒルズスイーツ」も「歓喜」の意味。
 - ▽ 「ハロウィーン」について
 - ・東京ディズニーランド・ディズニーシー スペシャルイベント「ディズニー・ハロウィーン」
 - ・カワサキハロウィン（川崎駅前で行われるイベント）
- 18) 国立国語研究所（1990）「外来語の形成とその教育」（日本語教育指導参考書 16）。
早野慎吾（1992）「外来語の発音と表記－「テイ」「ディ」「ジェ」について－」『静大国文』36号参照。
 - 19) 沖森卓也（2010）『はじめて読む日本語の歴史【うつりゆく音韻・文字・語彙・文法】』ベレ出版参照。
 - 20) 『日本語百科大事典』（大修館書店・1988）第1部日本語と日本人 II 日本語の歴史（築島裕編）参照。
 - 21) 金田一春彦（1985）「共通語の発音とアクセント」

『NHK 日本語発音アクセント辞典』付録。

- 22) 放送用語小委員会委員の発言で聞かれた発音では、[ウエディンク°]と発音しているつもりでも、[ウウエディンク°]と聞こえるようなものがあった。発音の意識と実際の発音が異なっている。
- 23) 日本新聞協会新聞用語懇談会で報告があった。
- 24) 新しい『NHK アクセント辞典』で、「推奨の語」「許容の語」は次のように立項される予定である。

●推奨の語の立項

ウイーク ウイ\ーク

許容 ウイーク ウイ\ーク

●許容の語の立項

ウイーク ㊦ウイーク

くわしくは、『放送研究と調査』（2014.9）「『NHK 日本語発音アクセント辞典』改訂 具体的な作業方針をめぐる検討～アクセント辞典改訂専門委員会（第7回）から～」参照。

- 25) 新しい『NHK アクセント辞典』の示し方について、くわしくは『放送研究と調査』（2012.9）pp.76～79、および『放送研究と調査』（2014.9）pp.74～87参照。また、「エ段に続くイ」の発音・表記については、井上史雄（2006.3）「外来語の表記と発音の問題点」『明海日本語 10, 11』pp.13～23参照。
- 26) 「背」単独の場合は、[セ] [セイ] [セー] 3つの読みを認めている（「背を向ける」場合は[セ]のみ。「背が高い」場合は[セ] [セイ] [セー]）。関連の語は、第1379回放送用語委員会（2014.2.28）に「用語の決定」で一部変更した。変更した語は「背格好」「背伸び」。これまで「○セカッコー、○セーカッコー、○セイカッコー」だったものを「①セカッコー、②セーカッコー」に、また、「○セノビ、○セーノビ」だったものを「①セノビ、②セーノビ」にした。なお、この語についての意見交換（第1376回放送用語委員会、2013.12.6）では、「背格好」「背伸び」以外の「背」「背くらべ」「背高」「上背」「中背」（『NHK アクセント辞典』に掲載のある「背」関連の語すべて）も[セイ]ではなく[セー]に統一することを説明に盛り込んだ。議題・資料や意見についてくわしくは、『放送研究と調査』（2014.3）pp.100～113、および『放送研究と調査』（2014.5）pp.64～73参照。

第1386回放送用語委員会（東京）

【開催日】平成26年12月5日（金）

【出席者】青木奈緒氏、井上史雄氏、井上由美子氏、荻野綱男氏、清水義範氏、野村雅昭氏、町田健氏、長田恭明 NHK 放送文化研究所副所長 ほか